

平成 26 年 3 月 17 日
総務部行財政改革推進課

幸福実感日本一（政策）職員提案制度について、平成 25 年度の結果や提案者等へのアンケートを踏まえ、平成 26 年度は以下のとおりとしたい。

1 平成 25 年度実施結果

(1) テーマ部門

・応募提案数	24 件	
・各部局選考結果	採 用	1 件
	部分採用	14 件
	不 採 用	9 件
・採用提案における展開		
新規事業に活用		5 件
予算要求を伴う改善・見直しに活用		7 件
改善見直しに活用		3 件

(2) 自由テーマ部門

・応募提案数	25 件
・事業の参考とした提案	3 件

(3) 一口政策提案

・応募提案数	53 件 (9 月 30 日現在)
・事業の参考とした提案	9 件
うち新規事業の参考とした提案	1 件

2 アンケート結果の概要

平成 25 年度職員提案制度について提案者及びテーマ設定部局担当者にアンケートを行ったところ概要は以下のとおりでした。

(1) 提案者の応募を促進する動機

提案者に応募してよかった点を尋ねたところ、自己研さんの機会となった点、提案が採用につながった点という回答が多くを占めました。

【代表的な意見】

- ・ 普段、施策や事業の立案に関わっていないので、政策立案能力を形成するうえで良いトレーニングになった点。
- ・ 提案について参考になった場合に関係部局から回答があったのは良かった。

(2) 提案の採用に関する意見

提案者側は提案が受け入れられず、採用のハードルが高いという意見が多く、提案の採否にあたっては、担当課意見だけではなく幅広い意見を取り入れたらどうかという意見もありました。

反対に、テーマ設定部局担当者のアンケート回答者のうち 55%が今回の提案は部局の課題解決に「役立たなかった」、「あまり役立たなかった」と回答しており、両者の相互理解が不足している結果となりました。

【代表的な意見】

- ・(提案者) 現在の採用状況だと、提案経験のある職員の多くがモチベーションをなくし、提案者がどんどん減っていくことが懸念されるので、職員提案ができるだけ採用され提案したことに意味があると思えるような工夫が必要だと思う。

(3) 担当課のやらされ感に関する意見

担当課側の意見としては、採用のプロセスに行財政改革推進課等が介入することで担当課に不満ややらされ感が生じるといった意見があり、提案者からも同様に改善を求める意見がありました。

【代表的な意見】

- ・(テーマ設定部局) 提案(を募集)するかしないかは担当課に委ねられるべきもので、それを採用するかしないかも担当課の判断であるべきで、さらに提案の有無から事業化までの経過やプロセスを追おうとすると様々な横やりが入ってしまい、不満ややらされ感が生じてしまうんだと思います。もっとシンプルな制度でいいのかもしれない。
- ・(提案者) 知事・副知事・担当課長との意見交換は、政策案が実現する可能性は高くなるものの、担当課としてはトップダウンの仕事になり、「やらされている感」からモチベーションが低下する危惧がある。

3 平成 26 年度幸福実感日本一(政策)職員提案制度(案)

(1) テーマ設定部局の担当課と意見交換する機会と提案の再提出の機会を確保

担当課と提案者がコミュニケーションを図り、より事業化を推進し、提案内容の精度を高めるために、テーマ部門については、希望する提案者には、提案を提出後、テーマ設定部局の担当課と意見交換をする機会を確保するものとします。

また、提案者は意見交換をふまえて提案を再提出することができることとします。

なお、現行どおり、提案者が希望していない場合であっても、必要に応じ、テーマ設定部局が意見を述べる機会を確保できるものとします。

(2) 自由テーマ部門意見交換の実施方法等の変更と提案の再提出の機会を確保

職員の賛同等が多かった上位提案について実施する意見交換は、今年度の3本から5本を対象を広げ実施するとともに、担当課と提案者がコミュニケーションを図り、より事業化を推進し、提案内容の精度を高めるために、提案者と担当課のみによる意見交換の場に変更します。

また、提案者は意見交換をふまえて提案を再提出することができることとします。

なお、上位提案の選定にあたっては、職員による賛同投票だけではなく、県政全般の幅広い観点などから提案の有効性を検討し、加味する仕組みについても検討を進めます。

(3) 投稿方法の工夫

提案については、D-boxへの投稿方式としていますが、テーマ部門、自由テーマ部門については、同時に提案者名も共有できる状態です。責任を持って提案を行うが名前について広く公表することは望まない提案者もいることから名前のD-boxへの投稿は提案者が判断できるようにし、投稿しない場合は、関係課及び提案制度担当者のみが共有する方法へ変更します。(投稿後、3日以内に提案制度担当者に連絡することとします。)(本内容は「一口政策提案」において提案があったものです。)

【参考】平成 25 年度幸福実感日本一（政策）職員提案制度の概要

（１）制度の目的

- ・ 職員の意欲及び能力の向上、組織の活性化
- ・ 組織内の幅広い知の活用による、より少ないコストの政策の形成

（２）概要

①テーマ部門

- ・ 次年度に向けて解決策を求める課題等のテーマを部局毎に設定し、募集。
- ・ テーマ設定部局が、課題解決に有効で事業等として採用できるかの視点等で選考。
- ・ テーマ設定部局は、提案選考の結果等を踏まえ事業化（必要に応じて予算要求）。
- ・ テーマ設定部局は提案選考の結果等を踏まえ職員力公募制度により職員を募集。

②自由テーマ部門

- ・ 自由テーマ部門は、職員の政策形成能力を高める一環として、自由な発想のもと政策提案する機会として設置。
- ・ 応募のあった提案は、イントラネット上で他の職員の賛同票を募り、賛同の多かった上位（3本程度想定）の提案については、オブザーバーとして知事に同席してもらったうえで、提案者と担当部局職員等が意見交換を行い、提案の実現可能性を探る機会を設置。

③「一口政策提案」

- ・ テーマ部門に現行の提案書を使用した「政策提案」とは別に、簡易な提案書で匿名でも気軽に応募できる「一口政策提案」を通年で設置。
- ・ 「一口政策提案」については、今後の事業推進のための参考とするアイデアを求めることを目的とし、個別のフィードバックは行わない。

④提案方法 D-box の投稿方式へ変更

- ・ 提案については、投稿した時点で職員に共有し、データベースとして検索性を高めるために、D-box への投稿方式とする。